

濟定檢省部文

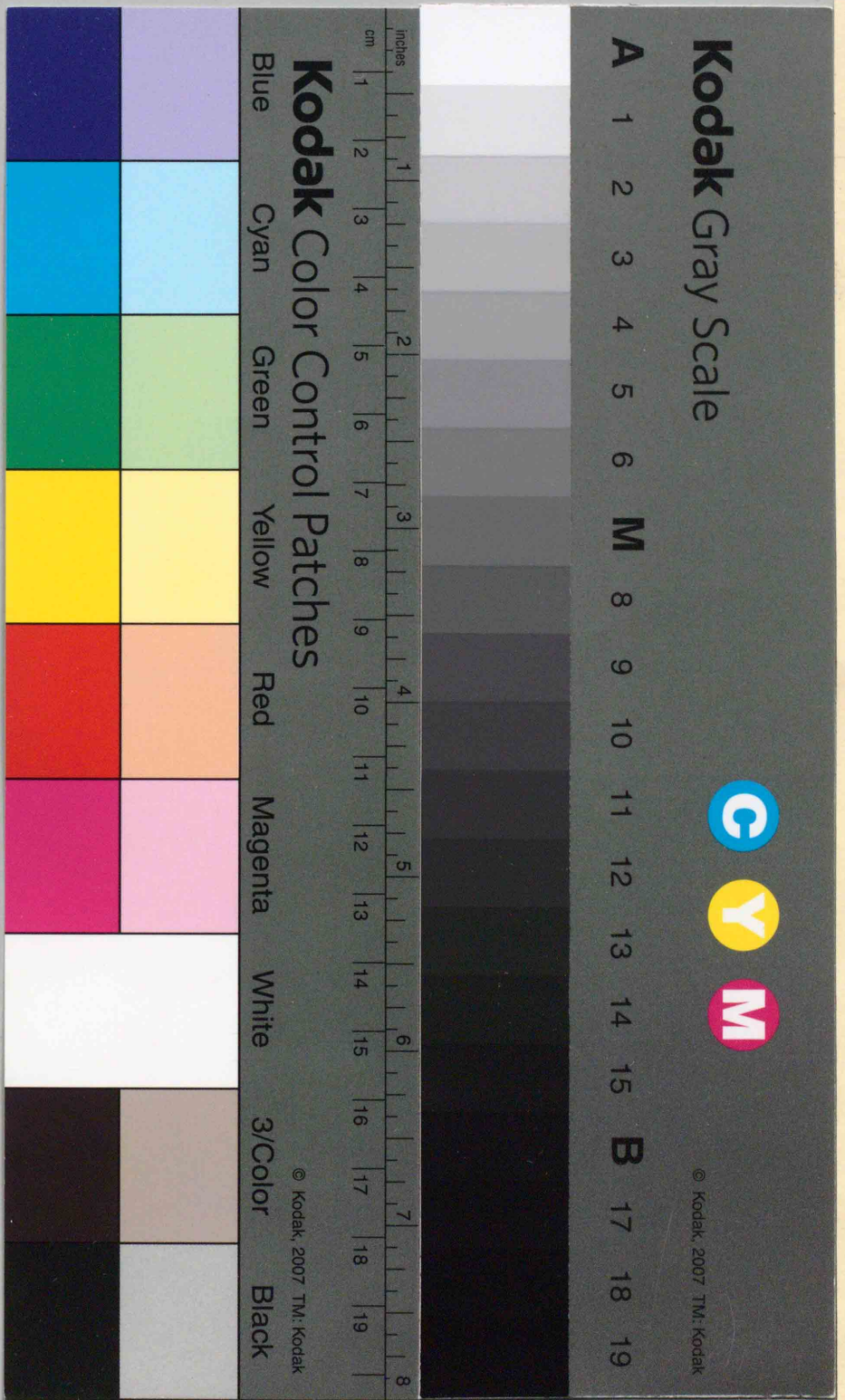
教科書文庫
4
670
32-1913
2000035434

小學商業教科書

記帳法及
取引例題

東京大倉商
業學校教諭
古館市太郎著

東京大阪
寶文館藏版



41123

教科書文庫

4
670
32-1913
20000
35434

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak

資料室

225.7
Fu18

教科書文庫

4

670

32-1913

2000035434

日八拾月參年貳正大
濟定檢省部文



東京大倉商
業學校教諭

古館市太郎著

商業教科書

記帳法及
取引例題



東京
大阪
寶文館藏版

広島大学図書

2000035434



凡例

一本書は小學商業教科書の附冊として、記帳法の大略を説明し且つ練習例題を掲げたり。記帳の雛形を挿入したるは、生徒にその體裁を知らしめんが爲めなり。

一本書は單複兩法に亘りて説明せるが故に、兩法に共通なる事項は、一方にのみ説明または雛形をかゝげ、他は省略したり。

一本書の例題は、小學商業教科書の内容および順序と相關聯するのと勿論なれども、餘りに不自然なる取引の假設をさけんがため、稀に多少順序を變更したる所なきにあらず、こは教師諸氏が記帳の時機を見定めて、適當なる處置をとられんことを望む。



小學商業教科書

記帳法及取引例題

古館市太郎著

第一 單式記帳法

一帳簿

單式帳簿の種類

(イ) 現金出納帳(又は金銀出納帳)

この帳簿は、金錢の出入のみを記すものにて、毎日の支拂高および受取高を記入し、これを差引計算すれば、常に錢箱の中にある金額と一致し、何時にても手許にある金高を明かにすることを得。

記入法は、月日の欄に取引の日附を記し、摘要欄には受拂の理由を記し、受入金は収入欄に、支拂金は支出欄に記す。

(ロ) 日記帳(又は當座帳)

この帳簿は、他人との貸借のみを記すものにて、相手の人名によりて貸借を分ち、かつ取引の要領を記帳す。この帳簿に記されたることにて、金錢の出入及び商品の賣買に關係せる分は、夫々金錢出納帳、賣上帳仕入帳にも記入せらる。

(ハ) 賣上帳

商品を賣りたるたびに、その數量および代金を記入す。

但し小賣は、その日の總賣上高を合計して、一度に記入すべし。

(ニ) 仕入帳

商品を仕入るゝたび、その數量および代金を記入し、結算期に、その仕入高を知るの用に供す。

(ホ) 元帳

元帳は、日記帳に記されたる貸借を、一名ごとにまとむる帳簿にして、各人名ごとに口座ゴザを設け、これに、取引ごとに日記帳より、要領および金高を轉記し、その差額を計算して、貸借の有様を明かならしむ。

日記帳より元帳に轉記したるときは、一々日記帳の元丁欄に、元帳の丁數を記し、元帳の日丁欄に、日記帳の丁數を記すべし。

次に記帳の體裁を示さん。(凡ての線および太き文字にて記したるは、みな赤記するものとす)

--	--

第一
單式記帳法

		日 帳 記		1.	
大2	正年	摘 要	元丁	金 額	
5	6	大東銀行(借)	1		
		小口當座預金		200	000
"	8	田中商店(貸)	2		
		全店ヨリ掛ニテ買入ル			
		上等半紙 五拾束 金五拾錢替 25.000			
		中等半紙 百束 金四拾五錢替 45.000		70	000
"	10	古館商店(借)	3		
		全店へ掛賣ス			
		上等半紙 五拾束 金五拾五錢替 27.500			
		フールスキヤツブ 參拾連 金貳圓七拾五錢替 82.500		110	000
"	12	田中商店(借)	2		
		全店へ掛借金ノ内返金ス		50	000
"	15	古館商店(貸)	3		
		全店ヨリ掛貸金ノ内受取ル		50	000
"	17	上阪商店(貸)	4		
		全店ヨリ掛ニテ買入ル			
		靴足袋 百打 金貳圓四拾錢替 240.000		240	000
"	19	古館商店(貸)	3		
		全店ヨリ掛貸殘金ヲ受取ル		60	000
		次葉へ繰越高		780	000

五

金 銀 出 納 帳

大2	正年	摘 要	收 入	支 出
5	1	資本主元入高	1,500,000	
"	2	開業諸雜費ヲ支拂フ		20,000
"	3	岩田商店へ商品代金ヲ支拂フ		220,000
"	4	營業用什器代ヲ支拂フ		150,000
"	6	大東銀行へ小口當座預ケトス		200,000
"	7	本日現金賣上高	48,000	
"	12	田中商店へ掛借金ノ内ヲ拂フ		50,000
"	14	本日現金小賣高	42,000	
"	15	古館商店ヨリ掛貸金ノ内受取ル	50,000	
"	19	" "	60,000	
"	20	本日現金小賣高	128,000	
"	25	" "	147,500	
"	26	大東銀行へ預入ル		600,000
"	30	本日現金小賣高	82,000	
"	31	本月分家賃ヲ支拂フ		15,000
"	"	本月分雇人給料ヲ支拂フ		12,000
"	"	本月分雜費ヲ支拂フ		20,000
		本日手許有高	2,057,500	1,287,000
				770,500
			2,057,500	2,057,500

小學商業教科書記帳法及取引例題

四

仕入帳

大2	正年	摘要	小計	金額
5	3	岩田商店ヨリ現金ニテ買入ル フルスキヤツブ 五拾連 金貳圓六拾錢替	130000	
		上等卷紙 五百本 金拾錢替	50000	
		中等卷紙 五百本 金八錢替	40000	220000
"	8	田中商店ヨリ掛ニテ買入ル 上等半紙 五拾束 金五拾錢替	25000	
		中等半紙 百束 金四拾五錢替	45000	70000
"	17	上阪商店ヨリ掛ニテ買入ル 靴足袋 百打 金貳圓四拾錢替		240000
"	23	岩田商店ヨリ掛ニテ買入ル フルスキヤツブ 五拾連 金貳圓六拾錢替	130000	
		中等卷紙 千本 金八錢五厘替	85000	215000
				745000
		當月賣買利益高		74500
				819500

日記帳

大2	正年	摘要	元丁	金額
		前葉ヨリ繰越高		780000
5	23	岩田商店(貸) 全店ヨリ掛ニテ買入ル フルスキヤツブ 五拾連 金貳圓六拾錢替	4	130000
		中等卷紙 千本 金八錢五厘替		85000
"	26	大東銀行(借) 小口當座預金	1	200000
"	28	古館商店(借) 全店へ掛賣ス フルスキヤツブ 五拾連 金貳圓八拾錢替	3	140000
		上等卷紙 參百本 金拾貳錢替		36000
				176000
				1,371,000

元 帳

大東銀行 1.

大正2年	摘要	日丁	借方	大正2年	摘要	日丁	貸方
5 6	小口當座預金	1	200 000	5 31	繰越		800 000
" 26	" "	2	600 000				
			800 000				800 000
6 1	繰越		800 000				

田中商店 2.

大正2年	摘要	日丁	借方	大正2年	摘要	日丁	貸方
5 12	掛借金ノ内返金	1	50 000	5 8	半紙掛買代金	1	70 000
" 31	繰越		20 000				
			70 000				70 000
				6 1	繰越		20 000

賣 上 帳

大正2年	摘要	小計	金額
5 7	現金小賣高		48 000
" 10	古館商店へ掛賣		
	上等半紙 五拾束 金五拾五錢替	27 500	
	フルスキヤツプ 參拾連		
	金貳圓七拾五錢替	82 500	110 000
" 14	現金小賣高		42 000
" 20	" "		128 000
" 25	" "		147 500
" 28	古館商店へ掛賣		
	上等卷紙 參百本 金拾貳錢替	36 000	
	フルスキヤツプ 五拾連		
	金貳圓八拾錢替	140 000	176 000
" 30	現金小賣高		82 000
			733 500
	賣殘品(棚卸表ノ通)		86 000
			819 500

古館商店 3.

大正2年	摘要	日丁	借方	大正2年	摘要	日丁	貸方
5 10	半紙及フールスキ ヤツプ買掛金	1	110,000	5 15	掛貸金ノ内受取	1	50,000
" 28	ヤツプ及フールスキ ヤツプ買掛金	2	176,000	" 19	" "	"	60,000
				" 31	繰越		176,000
			286,000				286,000
6 1	繰越		176,000				

上阪商店 4.

大正2年	摘要	日丁	借方	大正2年	摘要	日丁	借方
5 31	繰越		240,000	5 17	靴足袋掛買代金	1	240,000
			240,000				240,000
				6 1	繰越		240,000

岩田商店 5.

大正2年	摘要	日丁	貸方	大正2年	摘要	日丁	貸方
5 31	繰越		215,000	5 23	フールスキヤツプ 及巻紙掛買金	2	215,000
			215,000				215,000
				6 1	繰越		215,000

結算の順序

二、結算

各帳簿を締切りて、財産の變化および損益をしらぶることを結算といひ、その手續左の如し。

一、金銀出納帳の收入高および支出高を合計し、これを差引して手許有高を求め、これを朱記して支出高に加へ、金額を平均せしめて締切るべし。

二、日記帳は金額を合計して締切るべし。

三、商品賣残高を調べ、商品棚卸表を作るべし。

棚卸表を作るには、一々商品の數量をしらべ、これを時價又は時價以内に見積り、價を計算して記入するなり。

四、仕入帳および賣上帳の金額を一旦合計し、更に賣上帳の合計に商品棚卸表の金額を朱記して加へ、これと仕入帳の合計とを比らべ、もし賣上帳の方多ければそけだけ賣

諸表

買利益なるべく、少ければそれだけ賣買損なるべし。利益のときは、當月利益として仕入帳に朱記して加へ、損失のときは、賣上帳へ當月損失として朱記して加へ、以てこの兩帳簿の金額を平均せしめて締切るべし。

五、元帳各口座の借方貸方金額を差引して、その差額を求め、借方多きときは貸方へ、貸方多きときは借方へ、それぞれ繰越と朱記し、貸借を平均せしめて締切るべし。但し二人以上の組合にて成立てる營業は、其の出資高を夫々組合員の貸として日記帳に記入するが故に、此の帳簿にも各組合員の人名口座あり。従つて此等を締切るには、損益計算の上、各其の分配額を、損の時は借方へ、利益の時は貸方へ記入したる上、他の口座と同様に切るべし。

以上結算を終らば、資産負債表、貸借對照表ともいふ及び財産

目録を作るべし。

一、資産負債表

結算の結果として、財産は如何に變りたるかを、一目して明かならしむる表を資産負債表といふ。これを作るには、元帳の各人名口座に表はれたる繰越の内、貸方に朱記されたるもの、金銀出納帳の手許有高、棚卸表の金額、什器その他所有物の見積價格等を資産として集め、元帳の繰越の内、借方に朱記されたるものを負債として集め、負債に元入高を加へたるものと資産との差額を當期純損益として、損失のときは資産の側に、利益のときは負債の側に朱記し平均せしめて締切るなり。

二人以上の共同によりて組立てられたる商店ならば、この際その利益高又は損失高を、出資の割合によりて之を分割

二、財産目録

し、各自の分け前を明かに表はして、締切るものとす。
 貸借対照表と殆ど同じけれども、たゞ、各勘定の内譯を詳細に記す點に於て異れり。なほ資産だけ集めて、その内譯を示す財産目録もあり。

商品棚卸表

大正二年五月三十一日

フーンスキヤツン拾連	金貳圓六拾錢替	26000
上等巻紙四百本	金拾壹錢替	44000
中等巻紙百四拾束	金八錢替	11200
中等半紙拾束	金四拾八錢替	4800
		86000

資 産 負 債 表

大正二年五月三十一日

資 産	金 額	負 債	金 額
大東銀行 小口當座預金	800000	田中商店 掛 借 金	20000
古館商店 掛 貸 金	176000	上阪商店 "	240000
現 金 手 許 有 高	770500	岩田商店 "	215000
商 品 棚 卸 高	86000	資 本 金 最 初 元 入 高	1,500000
什 器 見 積 代 金	140000		
	1,972500		
當月純損失	2500		
	1,975000		1,975000

財產目錄

大正二年五月三十一日

摘	要	借方	貸方
資 産 ノ 部			
大東銀行	小口當座預金	800,000	
古館商店	賣掛代金	176,000	
現商	金手許	770,000	
	品		
	フールスキヤツ	拾本 貳圓六拾錢替	26,000
	上等卷紙	四百本 拾壹錢替	44,000
	中等卷紙	百四拾本 八錢替	11,200
	中等半紙	拾 東 四拾八錢替	4,800
	什器	椅子、机、腰掛、金庫其他	
		見積代價	140,000
負 債 ノ 部			
田中商店	掛買代金		20,000
上阪商店	"		240,000
岩田商店	"		215,000
資本	金		
	最初元入高	1,500,000	
	當月純損失	2,500	
	現在元入高	1,497,500	
			1,497,500
		1,972,500	6,972,500

取引例題 一

使用帳簿 現金出納帳

月一日 現金五百圓を資本として、小賣商業を始む。

月全日 營業用として、町番地家屋を大屋一郎より借り、敷金參拾六圓を現金にて差入れ、預り證を受取る。家賃一ヶ月金拾八圓の約。

月二日 店の造作をなし、大工に、賃銀拾八圓を現金拂す。

月三日 帳簿文具、錢箱等を買入れ、代金拾參圓五拾錢を現金にて支拂ふ。

月四日 筆墨紙、薪炭油等を買入れ、代金參圓貳拾七錢を現金にて支拂ふ。

月五日 尺度、秤および枱等を買入れ、代金四圓八拾錢を現金拂す。

月六日 林商店より、白米拾五俵(四斗入)、壹石につき金貳拾圓替にて仕入れ、現金を支拂ふ。この代金百貳拾圓也。

月七日 北山商會より、小豆五石、壹圓につき六升五合替にて仕入れ、代金七拾六圓九拾貳錢參厘を現金拂す。

月八日 本日、開店廣めのため、引札を印刷して配布す。この費用金壹圓五拾錢也。

月九日 本日現金小賣高、金拾五圓九拾錢也。

月十日 日の出屋より、左の通り仕入れ、代金六拾八圓を現金にて支拂ふ。

月十一日 郵便切手および葉書を買入れ、代金壹圓を現金

月全日 本日現金小賣高、金拾八圓五拾錢也。

石油貳拾箱(二罐入)壹箱につき參圓四拾錢替

拂す。

月全日 本日現金小賣高、金拾貳圓參拾五錢也。

月十二日 市 町古立商店へ左の通注文を發す。
一 臺灣玉砂糖上拾五俵 壹俵拾六圓拾錢替
一 B車糖 拾 俵 全 拾九圓八拾錢替

右來る十五日限發送のこと、代金は荷物到着次第銀行爲替にて送金のこと。

(右注文狀を作るべし、但し此事項は記帳なし)

月全日 本日現金小賣高、金拾四圓〇七錢也。

月十三日 本日現金小賣高、金拾六圓八拾九錢也。

月十四日 佐々木直治より、大麥八石、壹石につき九圓五拾錢替にて買入れ、現金を支拂ふ。この代金七拾六圓也。

月全 日 本日現金小賣高、金拾七圓四拾貳錢五厘也。

月十五日 本月分新聞購讀料、金參拾錢を支拂ふ。

月全 日 本日現金小賣高、金拾五圓拾錢也。

月十六日 去る十二日、古立商店へ注文したる砂糖、本日内國通運會社より配達せられたるにつき、送り券と引合はして受取り、配達料金貳圓五拾錢を支拂ふ。

月全 日 本日現金小賣高、金拾五圓七拾九錢五厘也。

月十七日 古立商店より、砂糖の勘定書郵送し來る。依て代金四百參拾九圓五拾錢、銀行送金爲替手形にて送り、右金額及び爲替手数料金貳拾錢を現金拂す。

月全 日 本日現金小賣高、金拾八圓參拾錢五厘也。

月十八日 本日より向三日間、賣出しをなし、準備費用および廣告費、金拾五圓八拾錢を支拂ふ。

月全 日 本日現金小賣高、金五拾八圓五拾錢五厘也。

月十九日 本日現金小賣高、金四拾九圓貳拾壹錢也。

月廿 日 本日現金小賣高、金五拾五圓參錢也。

月廿一日 林商店より、白米拾五俵(四斗入)、壹石につき金貳拾圓八拾五錢替にて仕入れ、代金百貳拾五圓拾錢を現金拂す。

月全 日 本日現金小賣高、金參拾八圓七拾錢也。

月廿二日 受取證用紙を印刷し、代金八拾錢を支拂ふ。

月全 日 本日現金小賣高、金參拾五圓九拾八錢也。

月廿三日 收入印紙を買入れ、代金壹圓貳拾錢を支拂ふ。

月全 日 本日現金小賣高、金參拾五圓八拾四錢也。

月廿四日 北山商會より、小豆五石、壹圓につき六升八合替
 にて仕入れ、代金七拾參圓五拾貳錢九厘を現金
 拂す。

月全日 本日現金小賣高、金四拾五圓貳拾參錢也。

月廿五日 本日現金小賣高、金參拾參圓九錢五厘也。

月廿六日 本月分家賃金拾八圓を支拂ふ。

月全日 本日現金小賣高、金參拾七圓七拾壹錢也。

月廿七日 本月分電燈料金貳圓五拾錢を支拂ふ。

月全日 本日現金小賣高、金參拾五圓參錢也。

月廿八日 本日現金小賣高、金參拾八圓參拾七錢也。

月廿九日 本月分家事費金貳拾圓八拾錢を支拂ふ。

月全日 本日現金小賣高、金參拾四圓六拾錢也。

月三十日 本月分諸雜費金貳圓五拾八錢を現金拂す。

月全日 本月分小僧手當、金八圓を拂渡す。

月全日 本日現金小賣高、金參拾參圓六拾九錢也。

月全日 本日商品棚卸をなすこと左の如し。

一 白米八俵(四斗入) 壹石につき金貳拾圓替

一 小豆參石八斗 壹圓につき六升貳合替

一 石油六箱半(十三罐) 壹罐につき金壹圓九拾錢替

一 臺灣玉砂糖上六俵 壹俵につき拾六圓貳拾錢替

一 B車糖貳俵 壹俵につき拾九圓九拾錢替

一 大麥參石五斗 壹石につき金九圓五拾錢替

商品棚卸表

大正 年 月 日

摘	要	金額
白米	八俵(四斗入) 壹石貳拾圓替	64000
小豆	參石八斗 壹圓 = 付六升二合替	61290
石油	六箱半(二罐入) 壹罐壹圓九拾錢替	24700
臺灣玉砂糖	上六俵 壹俵拾六圓貳拾錢替	97200
B車糖	貳俵 壹俵拾九圓九拾錢替	39800
大麥	參石五斗 壹石九圓五拾錢替	33250
		320240

財產目錄

大正 年 月 日

摘	借方	貸方
資 産 之 部		
現金	144823	
手賣高	320240	
許預金	36000	
有積代價	10000	
高積代價	5000	
代價積代價	1250	
負 債 之 部		
資本金		500.000
最初元入		17.313
高純利益		
	517313	517313

取引例題二

使用帳簿 日記帳 金銀出納帳 仕入帳 賣上帳 元帳 雜費內譯帳

(雜費內譯帳は用度方にて記入し、これに記入せるものは、金銀出納帳に記入せず)

月 日 現金壹萬圓を資本として、卸賣業を始む。

月 日 番地家屋壹棟、建坪參拾坪を金貳千五百圓にて買入れ、代金および登録税金八拾七圓五拾錢を現金にて支拂ふ。

月 日 大和火災保險會社と、家屋の保險契約を結び、火災保險證券を受取る。保險金額貳千貳百圓也。

右保險料半々年分、金參圓參拾錢を現金にて支拂ふ。

月 日 東洋銀行と當座預金勘定を開き、現金七千參百圓を預入れ、通帳および小切手帳を受取る。

月 日 日の出機業會社より、朝日印白木綿壹千反を、金五拾五錢替にて仕入れ、代金五百五拾圓を小切手第一號にて支拂ふ。

月 日 營業係一名、會計係一名、手代二名を雇入る。

月 日 用度方に雜費支拂用として現金五拾圓を渡す。

月 日 日進商會へ、富士印生金巾五百反を、鐵道便にて至急送るべき旨の注文を、照校電報にて發す。
(電報料五拾錢は用度方より支拂ふ)

月 日 大川商店へ、朝日印白木綿參百反、金六拾錢替にて賣渡す。代金百八拾圓は、全店振出第五銀行宛小切手にて受取る。(他人の振出したる小切手は現

金と見なす)

月 日 右小切手を東洋銀行に當座預けとす。

月 日 日進商會より、豫て注文の生金巾積出の案内狀來る。(送狀および貨物引換券同封)

送狀要領左の如し

一 富士印生金巾 五百反 金五圓替

此代金貳千五百圓也

一金拾五圓也 運賃立替

合計金貳千五百拾五圓也

(右荷物を停車場にて受取り、持込車力賃金壹圓貳拾錢を用度方より支拂ふ)

月 全日 右金巾代金貳千五百拾五圓は、小切手第二號を振出し、東洋銀行の支拂保證を受けて郵送す。

(書留郵便料金拾錢は用度方より支拂ふ)

月 日 桐田太郎右衛門へ、朝日印白木綿五百反、金六拾壹錢替、富士印生金巾百反、金五圓拾五錢替にて賣渡し、代金の内五百圓は、來る 日支拂の約束手形第十五號にて受取り、殘金參百貳拾圓は掛とす。

月 日 田西商店より生金巾の注文を受け、左の通り鐵道便にて積送る。依て送狀を作り、貨物引換券と共に案内狀に封じ、書留郵便にて發送す。(代金は荷物の到着の上送金の約束)

一富士印生金巾 參百反 金五圓參拾五錢替
運賃向拂

(郵税拾錢は用度方より支拂ふ)

月 日 東洋銀行より現金百五拾圓を引出す。(小切手第

三號を振出して渡す)

月 日 日の出機業會社より、大黒印綿縮五百反、金壹圓貳拾錢替にて仕入れ、代金の内金五百圓は、桐田太郎右衛門振出、當店向、約束手形第十五號に裏書して讓渡し、殘金百圓は現金にて支拂ふ。

月 日 綿ネル會社へ、綿縮フランネル、見本第二號第五號第六號各二千ヤル、汽船便にて送る旨注文を發す。

(郵税參錢は用度方より支拂ふ)

月 日 野間商會へ、白木綿貳百反、金五拾九錢替、綿縮參百反、金壹圓參拾貳錢替にて賣渡し、代金の内金參百圓は現金にて受取り、殘額金貳百拾四圓は、來る 日拂約束手形第八號にて受取る。

月 日 現金貳百圓を東洋銀行へ當座預けとす。
月 日 綿ネル會社より荷物到着す。送狀面計

算左の如し、

第二號縞綿ネル 貳千ヤル 一ヤル貳拾五錢替

第五號 同 同 貳拾八錢替

第六號 同 同 貳拾九錢替

此代金壹千六百四拾圓也

諸掛

一金拾八圓也 運賃立替

一金參圓五拾錢也 荷造費

一金貳圓四拾錢也 車力賃立替

小計金貳拾參圓九拾錢也

合計金壹千六百六拾參圓九拾錢也

月全日

右代金は、小切手第四號を振出し、東洋銀行にて送

金爲替を取組み、送金爲替手形を郵送す。(無手數料)

(郵税拾錢は用度方より支拂ふ)

月 日

右荷物を汽船會社より引取り、直ちに日東倉庫會

社に寄託し、預證券を受取る。

(陸上費および庫入諸費金參圓八拾四錢は、用度方

より支拂ふ)

月 日 千里商店より、縞綿ネルの注文を受く、依て

倉庫會社より内出の手續をなし、直ちに汽船便に

て積出し、赤船荷證券を受取る。

第二號縞綿ネル 二千ヤル 金貳拾九錢替

第六號 同 千五百ヤル 金參拾四錢替

運賃向拂

雜費内譯帳

大正 2年	摘要	受入	支 出					
			郵 稅	賃 銀	消耗品	廣告料	其 他	
9 5	會計方より現金受取	50000						
" 6	電 報 料		500					
" 8	商品持込賃料			1200				
" "	書留郵便料		100					
" 10	" "		100					
" 15	車 力 賃			750				
" 16	郵 稅		030					
" 20	書留郵便料		100					
" 23	陸上及庫入賃銀			3840				
" 24	積込賃			2130				
" 25	筆墨紙帳簿類				5400			
" "	薪炭油等				4780			
" 30	新聞廣告料					10750		
" "	電燈料其他						8600	
		50000	830					
			7920	7920				
			10180		10180			
			10750			10750		
			8600				8600	
			38280					
	手許殘金		11720					
		50000	50000					
	前月より繰越	11720						

第一單式記帳法

三三

月 日 (積込費貳圓拾參錢は用度方より支拂ふ)

月 日 野間商會振出、當店宛約束手形第八號、本日満期日につき、現金貳百拾四圓を受取る。

月 日 田西商店より、生金巾代金千六百五圓を、銀行爲替にて送り來る。依て送金爲替手形は東洋銀行に預入る。

月 日 雇人給料、金六拾圓を現金にて支拂ふ。

月 日 日東倉庫會社へ、倉敷料金拾參圓七拾錢を現金にて支拂ふ。

月 日 本日用度方よりの支拂左の如し。

一金五圓四拾錢也 筆墨紙文具一式代(小松屋へ)

一金拾圓七拾五錢也 廣告料(新聞社へ)

一金八圓六拾錢也 電燈料

一金四圓七拾八錢也 薪炭油代其他
本日結算を行ふ。

第二 複式記帳法

複式記帳法

複式記帳法は、單式記帳法よりも一層正確に、財産の増減變化を記入し、其現況を一目瞭然ならしむるものにして、複雑なる會計を整理するに適す。單式と異なる主なる點は、他人との貸借關係は勿論、それ以外の取引も、凡て貸借に分ちて記入し、兩々相對せしめて計算の精確を保つにあり。

財産交換

財産 人の所有に屬し、金錢に見積り得る物を財産といふ。財産に有形のものと無形のものあり。商品、家屋等は有形の財産にして、他人との貸借關係の如きは、無形の財産なり。交換 簿記上交換とは、一つの物の價と、他の物の價との受渡

取引

をいふ。例へば、甲は本屋より一冊の本を一圓にて買ひたりとせば、金錢にて一圓の價を渡し、本にて一圓の價を受けたるものにして、受渡したる本と金錢とは、その價相平均す。

取引 交換は、常に財産の増減または變化をおこすものなり。例へば、百圓の商品を買入れ、代金を支拂ひたりとせば、百圓の金錢を渡したる代りに、同價の商品を得たるが故に、財産に増減なけれども、變化を生じたるなり。また、千圓の家屋が、火災のため焼けうせたりとせば、家屋と無形の損失との交換にして、財産は千圓だけ減じたるなり。また、他人のために働き、手數料として拾圓の金錢を得たりとせば、勞力と金錢との交換にして、財産は拾圓だけ増したるなり。かく、交換によりて財産に増減變化をおこすことを、すべて取引と稱し、記帳の材料となるなり。

取引の例

- 一、林商店より商品を買入れ、代金百六拾圓を現金にて支拂ふ。
- (受) 商品(有形) 一六〇圓 (渡) 現金(有形) 一六〇圓
- 二、山口一郎のため、商品買入の周旋をなし、手数料拾圓を現金にて受取る。
- (受) 現金(有形) 一〇圓 (渡) 勞力(無形) 一〇圓
- 三、高田次郎へ商品を掛賣す。代金貳百圓也。
- (受) 貸金(無形) 二〇〇圓 (渡) 商品(有形) 二〇〇圓
- 四、金貳千五百圓に買ひたる家屋を、貳千圓に賣渡し、現金を受取る。
- (受) 現金(有形) 二、〇〇〇圓 (渡) 家屋(有形) 二、五〇〇圓
- 損失(無形) 五〇〇圓

借貸

仕譯方法

五、小川三郎へ、借金の利息貳拾圓を現金にて支拂ふ。

(受) 利息(無形) 二〇圓 (渡) 現金(有形) 二〇圓

借貸 複式簿記にては、右に示せる如き取引を記帳するとき、受渡の代りに借貸の二語を用ふ。また借貸は、普通は、自己より相手方に對して用ふる語なれども、簿記にては、相手より見て言ひ表はし、自己が甲に貸したるときは甲借といひ、自己が乙より借りたるときは乙貸と稱す。又普通に貸借は、人に對してのみいふ言葉なるも、複式簿記においては、人以外の物にても人の如く假定して、商品借、現金貸など言ひ表はすなり。

仕譯 取引のおこるごとに、交換せられたる物を借貸(受渡)にふり分くることを仕譯といひ、左の法則による。

すべて當方に受入れたるものおよび當方より借りたる人を借方に記入し、渡したるものおよび當方へ貸したる人を

貸方に記入す

通例借方を左方に記し、貸方を右方に記す。かくて交換の目的物は、常に同價なるが故に、幾回の取引を重ねるも、その貸借の合計もまた相等し。これを貸借平均の理といひ、複式簿記上最も大切なる原則なり。

仕譯の例(前出取引の例をそのまま用ふ)

一例は、商品を受けて現金を渡したるが故に、

(借方)

160.000

商品

現金

160.000

二例は、現金を受取りて勞力(手数料)を渡したるが故に、

10.000

現金

手数料

10.000

三例は、商品を渡して高田次郎へ貸金を生じ、即ち高田次郎は當方より借りたるが故に、

200.000

高田次郎

商品

200.000

四例は、家屋を渡して現金と損を受けたるが故に、

2,000.000

現金

不動産

2,500.000

500.000

損

五例は、現金を渡して金錢の使用料すなはち利息を受けたるが故に、

20.000

利息

現金

20.000

勘定科目

勘定科目 取引の種類は限りなきが故に、その交換する物の種類もまた無數なり。されば、一々その物の名稱を、そのまま用ひて記帳すれば、元帳口座の數も甚だ多くなりて、結算の手續極めて大なるべし。故に交換する物の内、同種類のもの、または同じ性質のものは、一括して適當なる名稱を與へて仕譯するを常とす。これを勘定科目といふ。前例に用ひたる、現

勘定科目
の分類

金・商品・手数料・人名・不動産・損益・利息等の如きは、みな勘定科目なり。

勘定科目を分類すれば、自己の資産または負債に属するものと、損失または利益に属するものとの二種となる。左に普通用らるゝ勘定科目の主なるものを示さん。

資産負債
に属する
もの

有形
無形

現金又は金銀

金銀および金銭と同様に用らるゝ小切手、請求次第支拂はるゝ手形等。

商
品

自己の店にて、營業として賣買する物品およびその代表證券。

不
動
産

家屋・地所等。營業上の用具、例へば机・腰掛・金庫・電話等。

人名勘定

掛買よりあこる貸借を、その相手の名前にて表はすもの。

借
用
金

借入金證書を差入れたる借金。借入金證書をとりて貸したる貸金。

貸
附
金

銀行への預金にして、當座預金、定期預金等、別々の科目を設けること多し。

預
ケ
金

一定の期限後に自己の受取るべき手形類。

受
取
手
形

勘定科目

損益に關
するもの
無形

支拂手形 一定の期限後に自己の支拂ふべき手形類。

公債及株券 各種の公債證書・株券・債券等。

資本金 營業に元入したる高。

利 息 貸借に對して受拂する利息、および有價證券より得る利子等。

手 數 料 各種の勞務に對して、各商店間に互に受拂する報酬。

割 引 料 手形の割引料。

保 險 料 各種の保險に對して支拂ふ保險料。

倉 敷 料 倉庫業者に支拂ふ保管料。

營 業 費 商店に於ける營業上の諸雜費にして、他の科目に屬せざるもの。

家 事 費 營業上の費用にあらざる、一家の生活費用

帳簿の種
類

帳簿 複式簿記に用ふる帳簿に、主要簿と補助簿とあり。主要簿は、會計全般に關係し、且つ結算に必要な帳簿にして、日記帳・仕譯帳・元帳是なり。金銀出納帳・賣上帳・仕入帳等は補助簿なり。

(イ) 日記帳

取引ごとに、月日の順序を追ふて、その要領を明かに記録するものにして、他の諸帳簿は、みなこれを基として記入せらるゝが故に、最も大切なる帳簿なり。

(ロ) 仕譯帳

日記帳に記入せる取引を、一々仕譯して、勘定科目の貸借を定め、元帳に轉記する用意をなす帳簿なり。

(ハ) 元帳

仕譯帳に記入せられたる勘定科目ごとに、口座を設け、これに、その勘定科目に關する貸借を、仕譯帳より轉記してまどめ、損益および財産の現況を明かにする帳簿にして、結算はこの帳簿によりて行はる。

(ニ) 金銀出納帳

單式の場合と同じ。

(ホ) 仕入帳

單式の場合と同じ。

(ヘ) 賣上帳

單式の場合と同じ。

左に示す記帳雛形の内記號 \checkmark は仕譯帳記入済のしるし、 $円$ は yen (圓) の略字、 $@$ は 円 替の略字なり。

日記帳

2.

大正2年	摘要	記號	金額
	前葉ヨリ繰越高		13,696.25
5 18	橘商店ヨリ掛ニテ買入ル 室蘭小豆 10石 @¥12— ¥120— 持込賃ヲ現金拂ス „ 7.50	✓	127.50
" 21	齋藤太郎ヨリ買入レ代金の内¥491—ハ岡田商店振出桐山商會宛當店向爲替手形ニ裏書シテ讓渡シ殘額ハ掛トス 大豆 60石 @¥10.80	✓	648—
" 25	松永商店へ掛ニテ賣渡ス 室蘭小豆 10石 @¥12.50	✓	125—
" "	田島商會宛當店振出ノ約束手形本日支拂期日ニ付小切手第四號ニテ支拂フ	✓	850—
" 28	桐山商會ヨリ掛貸金悉皆現金ニテ受取ル	✓	465—
" 31	本月分諸雜費ヲ現金ニテ支拂フ	✓	37.50
			15,949.25

日記帳

1.

大正2年	摘要	記號	金額
5 1	現金ヲ元入シテ營業ヲ始ム	✓	5,000—
" 2	東洋銀行へ當座預金トス	✓	4,000—
" "	筆墨紙文房具及郵便切手代ヲ現金拂ス	✓	25—
" 3	橘商店ヨリ買入レ代金ヲ小切手第一號ニテ支拂フ 肥後米 50石 @¥15.10	✓	755—
" 4	桐山商會へ掛賣ス 肥後米 30石 @¥15.50	✓	465—
" 5	田島商會ヨリ買入レ代金ハ同店宛日附後廿日拂ノ約束手形ヲ振出シテ渡ス 大麥 100石 @¥8.50	✓	850—
" 6	店用諸器具ヲ買入レ小切手第二號ニテ支拂フ	✓	30—
" 7	松永商會へ現金賣ス 大麥 80石 @¥8.90	✓	712—
" 10	齋藤三郎ヨリ買入レ小切手第三號ニテ支拂フ 伊勢米 50石 @¥15.50 ¥775— 割引五分 „ 38.75	✓	736.25
" 12	岡田商店へ賣渡シ代金ハ同店振出桐山商會宛一覽後一ヶ月拂ノ爲替手形ニテ受取ル 肥後米 20石 @¥15.50 ¥311— 大麥 20石 @" 9— "180—	✓	491—
" 15	栗山太郎へ賣渡シ代金ハ關東銀行宛小切手ニテ受取り直チニ東洋銀行ニ預入ル 伊勢米 40石 @¥15.80	✓	632—
	次葉へ繰越高		13,696.25

仕 譯 帳

2.

大正2年	摘要	元丁	借方	貸方
			13,696.25	13,696.25
5 18	商 品	4	127.50	
		10		120
		2		7.50
" 21	商 品	4	648	
		9		491
		11		157
" 25	松永商店	12	125	
		4		125
" "	支拂手形	7	850	
		3		850
" 28	金 銀	2	465	
		6		465
" 31	營業費	5	37.50	
		2		37.50
			15,949.25	15,949.25

仕 譯 帳

1.

大正2年	摘要	元丁	借方	貸方
5 1	金 銀	2	5,000	
		1		5,000
" 2	東洋銀行	3	4,000	
		2		4,000
" "	營業費	5	25	
		2		25
" 3	商 品	4	755	
		3		755
" 4	桐山商會	6	465	
		4		465
" 5	商 品	4	850	
		7		850
" 6	什 器	8	30	
		3		30
" 7	金 銀	2	712	
		4		712
" 10	商 品	4	736.25	
		3		736.25
" 12	受取手形	9	491	
		4		491
" 15	東洋銀行	3	632	
		4		632
	次葉へ繰越		13,696.25	13,696.25

商 品							
借 方				貸 方			
月日	摘 要	仕丁	借 方	月日	摘 要	仕丁	貸 方
5 3	東支東諸損	1	755	5 4	桐山商會	1	465
" 5	洋銀	"	850	" 7	山取洋永	"	712
" 10	銀行	"	736.25	" 12	會銀	"	491
" 18	行形	"	127.50	" 15	銀行	"	632
" 21	口口	"	648	" 25	店高	"	125
" 31	益	元13	117.25	" 31	殘	元14	809
			3,234				3,234

營 業 費							
借 方				貸 方			
月日	摘 要	仕丁	借 方	月日	摘 要	仕丁	貸 方
5 2	金銀	1	25	5 31	損益	元13	62.50
" 31	金銀	2	37.50				
			62.50				62.50

桐 山 商 會							
借 方				貸 方			
月日	摘 要	仕丁	借 方	月日	摘 要	仕丁	貸 方
5 4	商 品	1	465	5 28	金 銀	2	465

元 帳							
借 方				貸 方			
月日	摘 要	仕丁	借 方	月日	摘 要	仕丁	貸 方
5 31	殘 高	元14	5,054.75	5 1	金 銀	1	5,000
				" 31	損 益	元13	54.75
			5,054.75				5,054.75

金 銀							
借 方				貸 方			
月日	摘 要	仕丁	借 方	月日	摘 要	仕丁	貸 方
5 1	資 本	1	5,000	5 2	東 洋 銀 行	1	4,000
" 7	商 會	"	712	" "	營 業 費	"	25
" 28	桐 山 商 會	2	465	" 18	商 營 業	2	7.50
				" 31	殘 高	元14	37.50
			6,177	" "			2,107
							6,177

東 洋 銀 行							
借 方				貸 方			
月日	摘 要	仕丁	借 方	月日	摘 要	仕丁	貸 方
5 2	金 商	1	4,000	5 3	商 什 商	1	755
" 15	銀 品	"	632	" 6	品 器	"	30
				" 10	品 形	"	736.25
				" 25	支 拂 手	2	850
				" 31	殘 高	元14	2,260.75
			4,632				4,632

齋藤太郎 11.							
月日	摘要	仕丁元	借方	月日	摘要	仕丁元	貸方
531	殘高	14	157	521	商品	2	157
			157				157
松永商店 12.							
月日	摘要	仕丁元	借方	月日	摘要	仕丁元	貸方
525	商品	2	125	531	殘高	14	125
			125				125
損益 13.							
月日	摘要	仕丁元	借方	月日	摘要	仕丁元	貸方
531	營業費	9	6250	531	商品	4	11725
"	資本	1	5475				
			11725				11725
殘高 14.							
月日	摘要	仕丁元	借方	月日	摘要	仕丁元	貸方
531	金銀	2	2,107	531	橋商店	10	120
"	商	4	809	"	齋藤太郎	11	157
"	東洋銀行	3	2,260.75	"	資本	1	5,054.75
"	什器	8	30				
"	松永商店	12	125				
			5,331.75				5,331.75

支拂手形 7.							
月日	摘要	仕丁元	借方	月日	摘要	仕丁元	貸方
525	東洋銀行	2	850	55	商品	1	850
什器 8.							
月日	摘要	仕丁元	借方	月日	摘要	仕丁元	貸方
56	東洋銀行	1	30	531	殘高	14	30
			30				30
受取手形 9.							
月日	摘要	仕丁元	借方	月日	摘要	仕丁元	貸方
512	商品	1	491	521	商品	2	491
橋商店 10.							
月日	摘要	仕丁元	借方	月日	摘要	仕丁元	貸方
531	殘高	14	120	518	商品	2	120
			120				120

試算表

大正 年 月 日

借方	勘定科目	貸方
	1 資本金	5,000—
6,177—	2 資金	4,070—
4,632—	3 東商	2,371 ²⁵
3,116 ⁷⁵	4 商營	2,425—
62 ⁵⁰	5 桐支	465—
465—	6 付受	850—
850—	7 橋齋	491—
30—	8 松	120—
491—	9 藤永	157—
	10	
	11	
125—	12	
15,949 ²⁵		15,949 ²⁵

結算の順序

一、結算の準備

(イ) 試算表

元帳の記入に誤りなきかを確かむるため、各勘定科目の借方貸方の合計金額を一表に集めたるを試算表といふ。試算表の借方貸方の合計が一致するときは、大體誤りなきものと見なして可なり。

(ロ) 棚卸表

賣殘商品および家屋・什器・有價證券等の所有物をその時の相場以内に見積りて、價格を算定したる表なり。

二、結算

結算は、年一回または數回定期に、その期間に於ける營業の成績、財産の變化増減を知らべ、之を簡明に表示する方法なり。

結算の手續

イ、元帳に損益勘定の口座を開く、但し既に仕譯帳より轉記されたる損益口座あるときは、新に開くを要せず。
ロ、棚卸表に掲げたる金額を、それぞれ相當勘定口座の貸方

に、繰越として赤記す。

ハ、資本金勘定を除き、他の口座は、順次に借方金額の合計と、貸方金額の合計とを比べ、少き方へ、その差額を繰越として赤記す。但し損益に屬する勘定は、繰越と記さずして損益と赤記し、更に損益勘定口座の反対の側に、勘定科目と共に黒記するなり。

ニ、損益勘定口座の借方貸方合計の差額を、少き方へ資本金として赤記し、直ちに資本金口座の反対の側に、損益として黒記す。

ホ、資本金口座の貸借合計の差額を、少き方へ繰越として赤記す。

ヘ、かくて各勘定口座はみな借方貸方相平均するが故に、これを合計して締切るなり。その内、繰越と赤記したるは、翌月の部へ、一日附にて反対の側に、繰越として黒記す。

下、結算の間違なきかを検するため、各勘定の繰越高を、赤記と反対に、一表に集めて記入せるを繰越試算表といふ。又元帳に残高口座を設けて此處に集むるも可なり。何れも貸借合計平均するによりて、大體結算を正しとなす。

三、諸表

(イ) 損益表 (元帳の損益口座に集められたると同じく、損失利益を分類し、且必要なる説明を加へて純損益を明かに表はす表なり)

損益表		大正	
		年	月
		日	
摘要	損	失	利
商 品	賣上高	賣殘高	
	¥2,425-	" 809-	
	¥3,231-		
仕入高	" 3,116.75		
利 益	¥ 117.25		
營業費		62.50	
營期純利益	54.75		117.25
	117.25		

(ロ) 貸借対照表 (元帳の各勘定残高を資産負債に分類して集めたる表なり)

貸借對照表

大正 年 月 日		貸		借	
資	産	債	資	産	債
金商	銀品	店 金	店 金	120-	157-
東 永	行 店	藤 本	最 初 元 入 高		
松 什	器	資 産 表	當 期 利 益	5,000-	54.75
				"	54.75
					5,054.75
					5,331.75
2,107-	2,260.75				
809-	125-				
30-					
5,331.75					

(ハ) 財産目録 (單式にて説明せると同じ)

第三 單式記帳を複式記帳に変更する手續

單式記帳は、簡便なるが故に、小規模の會計を整理するには適當なれども、營業大となり、取引複雑なるに至れば、漸次これを複式に変更するの必要おこるべし。その順序左の如し。

- 一、貸借對照表を作るべし。
- 二、貸借對照表の各項目を、複式の日記帳に記入すべし。

單複變更

- 三、日記帳に記入せる各項目を、それぞれ勘定科目にあてはめて仕譯をなし、仕譯帳に轉記すべし。その場合、元入高にその期の損益を加減したる現在元入高は、資本金勘定となりて表はるゝなり。
- 四、單式の元帳を、そのまゝ引續き用ふるときは、既に設けられたる資本金勘定および人名勘定以外の、各勘定科目口座のみ新に開き、これに仕譯帳より轉記すべし。もし、元帳を全く新にするときは、すべての口座を設けて、それぞれ仕譯帳より轉記すべし。

例題

取引例題二(複式記帳、但し例題二より繼續す)

使用帳簿 日記帳・仕譯帳・元帳

月 日 本日より業務を擴張し、卸賣問屋兼業を営む。依て單式記帳を複式記帳に改めたり。前期の貸借

對照表左の如し。

資	産	金額	負債	金額
家屋	見積價格	2,500-	資本金	10,000-
東洋銀行	當座預金	4,207.10	最初元入金	10,000-
桐田太郎右衛門	掛貸金	320-	當期利益	358.32
千里商店	"	1,090-		
假渡	用度方殘金	1,172		
金品	賣殘品見積高	1,480-		
現商	手許有高	749.50		
		10,358.32		10,358.32

見日 營業用什器を買入れ、代金八拾圓を現金拂す。
 月日 用度方へ現金百圓を渡し、前期繰越殘金と共に雜費支拂用に當てしむ。
 月日 有澤商店へ、富士印生金巾百反、金五圓貳拾錢替に

て賣渡す。代金は掛とす。

月日 野田商店より、來る 日入港すべき汽船日本丸積チャスター印石油參百箱を金參圓八拾八錢替にて買入れ、船荷證券を讓受く。代金千百六拾四圓は、東洋銀行宛小切手第五號にて支拂ふ。

月日 日の出機業會社より、朝日印白木綿壹千五百反を、金五拾六錢替にて買入れ、代金の内金五百貳拾圓は、全社向有澤商店宛一覽後 日拂爲替手形を振出して渡し、殘金參百貳拾圓は掛とす。

月日 右白木綿は、日東倉庫會社へ壹千反、五百反の二口に分ちて預入れ、預證券および質入證券貳枚づゝを受取る。

月日 汽船日本丸本日入港し、野田商店より買入れの石

油參百箱を陸上し、陸上費金四圓五拾錢を現金にて支拂ふ。

月 日 チヤスター印石油參百箱を、販賣委託のため、橋商店へ汽船便にて積送る。

右荷物を海上保険に附し、保険料金五圓九拾錢を現金にて支拂ふ。

月 日 東北商會の委託により、松平商店より、綿フランネル貳百反、金參圓貳拾錢替にて買入れ、代金は小切手第六號にて支拂ふ。

月 日 右綿フランネルを、鐵道便にて東北商會へ積送る。買附勘定書左の如し。

一綿フランネル 貳百反 金參圓貳拾錢替
此代金六百四拾圓也

諸掛

一金壹圓五拾錢 荷造費

一金四圓八拾錢 運賃

一金拾貳圓八拾錢 手数料

小計金拾九圓拾錢也

合計金六百五拾九圓拾錢也

右荷造費および運賃は現金にて立替拂す。

月 日 岡田商店に左の通り賣渡し、代金は來る 日拂の約束手形第二十號にて受取る。

一大黒印綿縮 貳百反 金壹圓四拾錢替

一縞綿ネル 五號貳千ヤル 金貳拾八錢替

一同 六號五百ヤル 金參拾壹錢替

此代金九百九拾五圓也

月 日 齋藤商店より、日の出機業會社振出、當店宛、一覽後

日拂爲替手形第參號金參百貳拾圓を呈示せられ、引受をなす。

月 日 敷島海上保險會社と、豫定保險の契約をなし、通帳を受取る。

月 日 荒川商店より、白木綿の注文を受く、依て日東倉庫會社へ寄託中の朝日印白木綿、五百反の口を藏出し、倉敷料金七拾錢は現金にて支拂ふ。

月 日 右白木綿を、荒川商店へ汽船便にて積送る。依て敷島海上保險會社へ通知して、通帳に檢印を受け、なほ荷爲替取組のため、保險證券を受取る。

右商品代金參百圓(一反につき六拾錢替)の八掛に對し、第五銀行にて荷爲替を取組み、手敷料および割引料金貳圓五拾錢を差引き、手取金は現金にて

受取る。

月 日 岡田商店振出の約束手形第二十號(金九百九拾五圓)を、東洋銀行にて割引し、割引料金參圓五拾四錢を差引き、手取金は全銀行に預入る。

月 日 橋商店より、豫て販賣を委託したる石油の賣上勘定書を送り來る。當店手取金八百拾壹圓九錢は、追て送金の筈。

月 日 東北商會より、買附委託勘定金六百五拾九圓拾錢を、銀行爲替にて送り來る。送金爲替手形は東洋銀行へ預入る。

月 日 日東倉庫會社へ預入れの、白木綿壹千反を擔保として、第五銀行より金五百圓を借入れ、現金を受取る。期限 月、利息年壹割。依て質入證券を銀行

に差入れ、預證券に質權設定の記入を受く。

月 日 田中商店より、販賣委託のため、紺カスリ四百反を送り来る。荷爲替金壹千五百圓を小切手第七號にて支拂ふ。

月 日 田中商店委託品、紺カスリ四百反を、金五圓替にて宮田商店に賣渡し、全店振出、桐山太郎左衛門宛日拂の爲替手形第十八號を受取る。

月 日 右爲替手形を代金取立依頼のため、東洋銀行に預入る。

月 日 田中商店へ紺カスリの賣上勘定書を送る。

一紺カスリ 四百反 金五圓替

此代金貳千圓也

内

一金壹千五百圓 荷爲替立替拂

一金壹圓參拾錢 諸 雜 費

一金貳拾圓 手数料賣上高の一分

小計金壹千五百貳拾壹圓參拾錢也

差引金四百七拾八圓七拾錢 正味手取金

右手取金は、第五銀行にて送金爲替を取組み、手数料五拾錢と共に現金にて支拂ふ。

月 日 林次郎より四分利公債證書額面金參千圓を、金八拾參圓替にて買入れ、代金貳千六百七拾圓は小切手第八號にて支拂ふ。

右公債證書は東洋銀行へ保護預とす。

月 日 栗山商店へ、朝日印白木綿壹千反を、金五拾九錢替にて賣渡し、代金の内金五百七圓五拾錢は、第五銀

行よりの借用金および利子を、全店より支拂ふこととし、残額金八拾貳圓五拾錢を現金にて受取る。
月 日 豫て東洋銀行へ代金取立を依頼したる爲替手形金貳千圓、取立済の報告來る。依てそのまま、當店預金に振込を依頼す。

月 日 本日左の通り現金にて支拂ふ。

一金八拾五圓 店員給料

一金拾參圓八拾錢 倉庫料

一金拾圓七拾四錢 保險料

月 日 用度方より支拂報告左の通り。

一金九拾壹圓五錢 諸雜費

殘金貳拾圓六拾七錢は會計方に返す。

本日閉業結算を行ふ、棚卸左の如し。

棚卸評價法

一 賣殘商品なし

一 家屋壹棟見積代價 金貳千參百圓也

一 什器一式見積代價 金六拾四圓也

一 四分利公債證書額面金參千圓

時價金八拾參圓替 金貳千四百九拾圓也

商品有價證券等の棚卸は、その時の相場にて評價すべきも、成るべく内輪に見積るを安全とす。家屋の如き市價の定まり難きものは、その原價より、保存年數に應じ、一定の割合にて減價したる價を以て、評價格とするを可とす。なほ毎期の利益より、これを補ふべき積立金をなし置かば、一層安全なるべし。

小學商業教科書 記帳法及取引例題 終

大正元年九月五日印刷
 大正二年九月五日再版印刷
 大正三年七月五日訂正再版發行

不許

小學商業教科書

複製

著者

發行者

發行者

印刷者

古館市太郎

大葉久

吉岡平助

青柳十一郎

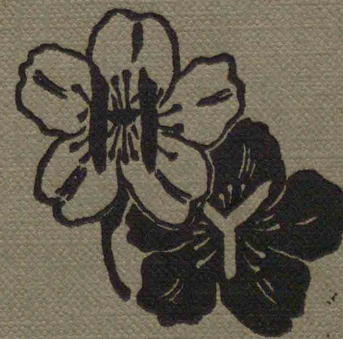
定價	
卷一	一金貳拾五錢
卷二	二金貳拾五錢
取記帳法及金拾五錢	拾五錢
取引例題	拾五錢

發兌

東京市日本橋區本石町三丁目
 大阪市東區備後町四丁目

寶文館

東京市日本橋區本石町三丁目 印刷所
 東京市牛込區市谷加賀町一丁目 秀英第一工場



広島大学図書

2000035434

